

JWF ファンド 2017 フォローアップ 実施報告書

2019 年 4 月
特定非営利活動法人日本水フォーラム



目次

1. JWF ファンドとは.....	3
(1) 概要.....	3
(2) フォローアップとは.....	3
2. フォローアップ活動報告.....	4
(1) ンクム・エキエ村における命のための水供給プロジェクト（カメルーン）.....	4
(2) 小学校への衛生設備建設と衛生に関する啓発活動（ケニア）.....	7
(3) 湧水の保護によるルヒヤヘ地域の安全な水へのアクセスの促進（ケニア）.....	13
(4) 井戸の修繕と衛生、維持に関する啓発活動と青年の維持管理能力向上トレーニング（インド）.....	18
(5) 衛生設備と水供給設備の建設による子どもの教育環境の確保（バングラデシュ）.....	22
(6) 雨水貯留プロジェクト（フィリピン）.....	26

「JWF ファンド 2017 フォローアップ実施報告書」は、2017 年に JWF ファンドの資金支援により、現地活動を行った現地団体からのフォローアップ調査報告資料を元に作成しています。

日本水フォーラムは、現地団体からのプロジェクト提案書に基づいて活動内容を審査し、採用した団体へ活動資金の助成を行っています。現地活動、及び、フォローアップ調査は現地団体によって実施されており、日本水フォーラムはその実施には携わっておりません。

本紙に掲載されている内容の引用・転載をご希望の際は、下記連絡先までご一報ください。

発行元：

特定非営利活動法人日本水フォーラム

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 5-4 アライズ第 2 ビル 6 階

TEL: 03-5645-8040 FAX: 03-5645-8041

E-mail: jwffund@waterforum.jp

1. JWF ファンドとは

(1) 概要

JWF ファンドは、2005（平成 17）年に日本水フォーラムが設立し、独自に運営する助成基金です。発展途上国の水問題解決のために草の根活動を行っている団体を対象に、毎年プロジェクトを公募し、採択された団体には1プロジェクトあたり 1,000US ドルを上限とした資金を助成しています。この基金は、日本水フォーラムの会費や、一般の方から Charity for Water に寄せられた寄付等により運営されています。

JWF ファンドは、1 プロジェクトあたりの支援金額の上限を 1,000US ドルとすること、草の根活動を実施している現地団体の活動を支援すること、現地に適した技術と方法を用いて実施することを基本原則としています。現地活動の実施を現地団体に完全に任せることにより、日本水フォーラムが直接その実施に携わる場合に発生する経費を削減し、成果を得ることを大きな特徴としています。

この助成により、過去 14 年間で 170 件のプロジェクトを支援し、アジア太平洋、アフリカ、中央アメリカ、南アメリカでの総受益者数は 20 万人を超えました。

JWF ファンド 2005～2018 の支援実績

- ◆ 支援件数：170 件
 - ◆ 総支援額：168,287 US ドル
 - ◆ 総受益者数：205,701 人
 - ◆ 水供給設備数：484 基
 - ◆ 衛生設備数：3401 基
 - ◆ 啓発活動数：422 回
- （2019 年 4 月現在）

(2) フォロースアップとは

JWF ファンドは、現場の課題やニーズに効率的かつ効果的に応えることを念頭に活動しています。2015 年からは、活動終了から約 1 年後に課題やニーズにどのような変化が見られたかを把握、理解することを目的に、現地団体の協力を得て、フォロースアップ調査を実施しています。

フォロースアップ活動を開始して 4 年目となる 2018 年度は、JWF ファンド 2017 で支援した 7 件の実施団体（エチオピア 1 件、カメルーン 1 件、ケニア 2 件、インド 1 件、バングラデシュ 1 件、フィリピン 1 件）に、フォロースアップ調査実施の打診をしました。その結果、エチオピアを除く 6 件の団体から実施承諾の回答を得て、フォロースアップ調査を実施しました。

2. フォローアップ活動報告

(1) ンクム・エキエ村における命のための水供給プロジェクト (カメルーン)

1) JWF ファンド 2017 実施プロジェクト概要

- 実施団体 : Community Awareness and Development Association Cameroon (CADAC) (#172)
- プロジェクト名 : ンクム・エキエ村における命のための水供給プロジェクト
- 実施国・地域 : カメルーン、中央州
- 実施期間 : 2017 年 10 月～2018 年 3 月
- 受益者数 : 直接受益者数 179 人、間接受益者数 2,000 人
- 実施費用 : 1,594.54 ドル (JWF ファンド 1,000 ドル、受益者の負担 100 ドル、CADAC 等の負担 494.54 ドル)



実施地の課題

2014 年から 2016 年にかけて実施された国家世帯統計局の調査によると、他の地域では腸チフスや下痢症など汚染された水に起因する病気の発生が減っているのに対し、実施地では未だこのような病気が流行していることが分かった。ンクム・エキエ村の人びとは、遠く離れた川から水を汲んでいるが、この川は洗濯や皿洗い、水浴びにも使われている。さらに、この周辺には蚊が多く、女性や子どもたちはマラリアにかかる危険に晒されている。このような状況であるが、地域の保健所にも安全な水供給設備はない。

プロジェクト実施事項

- ◆ 関係者調整会議の開催
- ◆ 水と衛生、健康に関するワークショップの開催
- ◆ 井戸を 1 基建設
- ◆ 水質検査の実施

これらの活動により、ンクム・エキ工村の住民が安全な飲み水を得られるようになったため、汚染された水による病気の減少が期待される。

JWF ファンド 2017 実施前の様子



住民が利用していた水源



水源までの道は険しい

JWF ファンド 2017 実施中の様子



水と衛生に関するワークショップ

JWF ファンド 2017 実施後の様子



完成した井戸

2) フォローアップ結果

フォローアップ訪問は、2019 年 3 月 12 日、Mr. Ebenezer Ngala（CADAC のスタッフ）により実施された。

◆ 建設した井戸

- 訪問の結果、建設した井戸が 3 つの理由で利用されていない事が分かった。
一つ目の理由は、井戸の維持管理体制。当初、井戸を効果的に維持管理し、持続性を確保するために維持管理委員会の設立が想定され、村長を含む地域の代表者たちがメンバーとなることを予定していた。しかし、村長と地域の人びとの間で、過去に水の利用をめぐる問題が発生したことがあり、地域の人びとが委員会への村長の関与に不安感を示したことから、委員会がうまく機能していない。このため、井戸はあまり使われていない。
二つ目の理由は、井戸の水が良好ではないこと。ただし、井戸を使う住民は、井戸の水を飲み水や生活用水に利用している。また、農業にも井戸の水は利用されている。
三つめの理由は、ヘルスセンターの移転。ヘルスセンターがプロジェクトの協力者であったが、運営側の事情によりこの地域での活動をやめ、移転した。

このような事態に対応するため、CADAC が責任を持って次の 2 つの対策を行う予定。

- 維持管理委員会の設立：CADAC は、プロジェクトの持続性を確保し、活用できるよう、地域水管理委員会を設立する。また、CADAC がこの委員会の設立と、今回の対立やその他発生する可能性のある事態への適切な対応が完了するまで、調整役を担う。
- 井戸の清掃：CADAC は、井戸の清掃と井戸が使えるようにするため技術者を手配する。これは乾期（5 月ごろ）が終わる前に、完了する予定。

(2) 小学校への衛生設備建設と衛生に関する啓発活動（ケニア）

1) JWF ファンド 2017 実施プロジェクト概要

- 実施団体：Renewed Hope Group（RHG）（#054）
- プロジェクト名：小学校への衛生設備建設と衛生に関する啓発活動
- 実施国・地域：ケニア、カカメガ郡
- 実施期間：2017 年 10 月～2018 年 2 月
- 受益者数：1,200 人（女子児童 800 人、男子児童 400 人、教師 20 人）
- 実施費用：1,339 ドル（JWF ファンド 1,000 ドル、受益者より 199 ドル、RHG より 140 ドル）



実施地の課題

実施地域に唯一あるエシル小学校には 1,200 人の児童が通っている。しかし、この学校にはトイレが 2 基しかなく、その汚水槽はあと半年で満杯になってしまう。トイレの数が不足しているため、休み時間にはトイレを待つ長蛇の列ができ、授業に遅れる児童や、授業に間に合うように周辺で野外排泄をする児童もいる。彼らには衛生に関する知識がなく、小学校には手洗い場が無い。このため、少なくとも 4 割の生徒が、毎年病気にかかっており、地域の保健所が定期的に学級を閉鎖させている。

プロジェクト実施事項

- ◆ プロジェクト実施委員会の設立
- ◆ VIP トイレ¹3 基と小便器の建設
- ◆ 手洗い場 4 基の設置

¹ VIP トイレとは、Ventilated Improved Pit Latrine の略称。臭気及びハエの発生を防止するために換気管を設置した衛生設備。

- ◆ 衛生習慣に関する啓発活動を 1 回実施
- ◆ 維持管理体制の構築

これらの活動により、学校に通う児童と教師が継続的に衛生設備を使用できるようになるため、学校の学習環境が改善されることが期待される。

JWF ファンド 2017 実施前の様子



トイレに並ぶエシル小学校の児童たち

JWF ファンド 2017 実施中の様子



VIP トイレの建設

JWF ファンド 2017 実施中の様子



衛生習慣に関する啓発活動のようす

JWF ファンド 2017 実施後の様子



建設した VIP トイレ

2) フォローアップ結果

フォローアップ訪問は、2019 年 1 月 11 日、Ms. Deborah Patesena（RHG のスタッフ）により実施された。

- ◆ 建設した VIP トイレ 3 基と小便器 1 基、手洗い場
 - VIP トイレ 3 基と小便器、手洗い場は、破損等は見られず良好な状態である。定期的に清掃されており、学校に通う児童と教師が、これらの設備を使用している。
 - 手洗い用の水は、学校の雨水貯留タンクか、近隣の湧水保護設備から汲んできている。
- ◆ 古いトイレ
 - プロジェクト実施前、生徒が利用していた古いトイレ 2 基は、汚水槽が満杯になったため使用されていない。一時的に建設されたため設備自体がもろく、崩壊の危険性から肥溜めを空にすることが出来ない。
- ◆ 維持管理体制
 - 建設した VIP トイレと小便器、手洗い場の維持管理は、校長、理事長、秘書、財務を兼任する会計役から構成されるエシル学校の理事会が実施している。この理事会が 1200 人の児童から維持管理費用を年に 1 回集め、トイレの修理費や汲み取りの費用として積み立てている。修理や汲み取りが必要となった時は、地方行政機関の水衛生部門と協力し、熟練したエンジニアや業者、コンサルタントを雇い、積立金をその支払いに充てている。
これまでに貯まった積立金で、トイレ外壁の塗装、清掃用のほうきの購入、手洗い場の壊れた蛇口と割れた洗面器を交換したほか、トイレと手洗い場清掃用の液体せっけんを購入した。
理事会は VIP トイレと手洗い場を適切に使用できるよう、児童と用務員による当番制の清掃を監視・監督している。
 - 定期的な清掃は、児童と用務員が行っている。女子児童 6 名と男子児童 3 名が交代制で当番になり、それぞれ月曜日、水曜日、金曜日の朝に VIP トイレ 3 基と小便器を清掃している。また、用務員は 3 人一組で土曜日の朝、VIP トイレと手洗い場の清掃を行っている。清掃用の水汲みや個室内の清掃を、当番の中で分担しながら行っている。

- ◆ 衛生習慣の変化
 - 学校にVIPトイレができたことにより、児童はトイレを使うようになり、野外排泄を避けるようになった。学校の近くの林での野外排泄は大幅に減り、ほとんどなくなった。
 - 児童たちは用を足した後や手が汚れているときに手を洗い食事の前に食器を洗うようになった。
- ◆ 受益者の変化
 - 衛生設備ができたことと衛生習慣が変化したことにより、健康状態に良い変化が見られるようになった。児童がかかっていた汚染された水に起因する病気は劇的に減り、野外排泄の悪臭はしなくなった。
 - 衛生設備ができたことと衛生習慣が変化したことにより、エシル小学校の運営と教育環境に良い変化が見られるようになった。悪臭や、汚染された水に起因する病気が減少したことで、学習環境と登校率が改善され、児童が学校で過ごす時間が増えた。加えて、公衆衛生官から指導を受けることが減った。

現場からの声

- ◆ Jairus Wanyonyi さん（14 歳、男性、エシル小学校に通う児童）
 - トイレと手洗い場を使っています。素晴らしくてとても評価しています。プロジェクトの前、古いトイレに並ぶことを避けて学校の周りの林で用を足すことは、私にも他のほとんどの児童にとっても習慣となっていて、驚くことではありませんでした。でも、それが間違っていたと分かりました。トイレと手洗い場を使うことが、適切な衛生習慣を始めるきっかけとなりました。もう外で排泄していませんし、トイレの後や手が汚れているときは、手を洗っています。
 - プロジェクトの後、衛生習慣の面で私の健康も学校での学習環境も良くなったと感じています。私や他の児童を何年も悩ませてきた下痢症は、劇的に減りました。私もエシル学校に通う児童たちも、いまは健康をととても大切にしています。私たちは、この学校と地域の汚染された水に起因する病気や衛生問題に取り組むため、健康クラブを立ち上げました。下痢症に等にならないよう、児童たちは学校の周りの林で野外排泄することをやめ、VIP トイレを使っています。児童たちは、今は衛生を健康の鍵であると位置づけ、用を足した後は手を洗い、個人でできる衛生習慣を守っています。不適切な衛生設備の結果である臭気と学級閉鎖はなくなりました。
- ◆ Nafula Nabwile さん（12 歳、女性、エシル小学校に通う児童）
 - トイレと手洗い場を使っています。いつもトイレと手洗い場を使えてとても嬉しいです。これまで用を足した後に手を洗ったことがなかったので、新しい経験でした。不衛生な古いトイレと、行列に並ぶのはとても嫌でした。
 - 私は健康状態が良くなったと感じています。よく下痢になっていましたが、今

はほとんどありません。今は健康で、勉強と将来に向けたやる気に溢れ、これを誇りに思っています。下痢症の小さな心配はもう過去のもです。

- プロジェクト後、学校の環境にも衛生面で良い変化がありました。学校の周りでの野外排泄が減り、プロジェクト前のように排泄物につまづいたり、悪臭がしたりすることはほとんどなくなりました。また、他の児童たちが、用を足した後に手を洗うようになったことは、素晴らしいことだと思います。
- ◆ Janet Wasike さん（35 歳、女性、エシル小学校の教師）
 - トイレと手洗い場を使っています。これにより、学校の衛生環境が大幅に改善され、学習環境がより良くなったと感じます。
 - プロジェクト完了後、自分自身の健康状態と衛生面での学校環境が良くなったと思います。汚染された水に起因する病気にかかることがほとんどなくなり、健康になってエシル小学校での教師としての義務を果たせるようになったと感じています。エシル小学校で教えることが楽しくなりました。児童の下痢症や野外排泄による悪臭といった問題が減り、トイレを待つ長蛇の列がなくなったことで、児童が休憩時間内に教室に戻れるようになったからです。プロジェクト完了後、不衛生により学級閉鎖になったことは一度もありません。日本水フォーラムの素晴らしい活動に感謝します。
 - 現在の維持管理の仕組みは、素晴らしいです。エシル小学校の理事会は、児童から集めた維持管理費用を注意深く管理しており、設備を適宜修理し、改良しています。理事会は、トイレや手洗い場が適切に清掃、管理、使用されることを保証しており、維持管理のための適切な方針を設定しました。
- ◆ Christine Sande さん（32 歳、女性、地方行政機関の水衛生部門職員）
 - プロジェクト完了後、私自身の健康状態だけでなく、学校の衛生環境にも良い変化がありました。このプロジェクトはケニアの Vision 2030²と、すべての市民のための適切な衛生を確保するというケニア国憲法に一致しています。プロジェクト実施後は、エシル小学校は衛生設備の不足を改善しつつあり、衛生に関しては良い事例となっている。
 - NGO による、この地域での学校の衛生環境改善を図る草の根活動の役割は大変重要です。発展途上国であるケニアでは、衛生は依然として学校が抱える最大の課題の一つです。学校に通う生徒やその保護者たちは、貧困状態にあり、衛生環境改善のための政府からの支援をほとんど受けていません。政府や貧しい地方地域には資源がほとんどないことから、この地域にある学校の衛生環境を改善できるのは、NGO による草の根活動だけです。

² Vision2030 は、ケニアの 2008～2030 年における国の発展計画。ケニアを 2030 年までに新しく産業化させた「全国民が高い生活水準を享受する産業中所得国」に変えることを目標にしている。

得られた教訓

これまで実施したプロジェクトにおいて、支援者からの要請によるフォローアップ活動は実施したことがなく、今回が初めてであった。

フォローアップの様子



エシル小学校



手洗い器で手を洗う児童



建設された VIP トイレ



VIP トイレと Jairus Wanyonyi さん

(3) 湧水の保護によるルヒヤヘ地域の安全な水へのアクセスの促進 (ケニア)

1) JWF ファンド 2017 実施プロジェクト概要

- 実施団体：Ufanisi Women Group (UWG) (#031)
- プロジェクト名：湧水の保護によるルヒヤヘ地域の安全な水へのアクセスの促進
- 実施国・地域：ケニア、ブンゴマ郡
- 実施期間：2017 年 10 月～2018 年 2 月
- 受益者数：750 人（女性 150 人、男性 150 人、子ども 450 人）
- 実施費用：1,389 ドル（JWF ファンド 1,000 ドル、受益者の負担 258 ドル、UWG の負担 131 ドル）



実施地の課題

実施地には 150 世帯が住んでおり、住民たちは遠く離れた湧水を水源として使用している。しかし、この水源は保護されておらず、ごみや野外排泄による糞尿などが流れ込むため、汚染されている。この水を煮沸等せずに使用しているため、住民たちは下痢症にかかっており、死亡する人もいる。村の約半数が病気の治療のために毎月診療所を訪れているほか、時々発生する病気の流行が原因で、保健所が地域の小学校を学級閉鎖することもある。

実施事項

- ◆ プロジェクト実施委員会の設立
- ◆ 湧水保護設備の建設
- ◆ 衛生と維持管理に関するトレーニングを実施（3 日）
- ◆ 維持管理委員会の設立
- ◆ 水質検査の実施

これらの活動により、ルヒヤヘ地域の住民 150 世帯 750 人が安全な飲み水を利用できるようになったため、汚染された水に起因する病気の減少が期待される。

JWF ファンド 2017 実施前の様子



住民が水源として使用していた湧水

JWF ファンド 2017 実施中の様子



湧水保護設備の建設

JWF ファンド 2017 実施中の様子



衛生と維持管理に関するトレーニング

JWF ファンド 2017 実施後の様子



完成した湧水保護設備

2) フォローアップ結果

フォローアップ訪問は、2019 年 1 月 2 日、Mrs. Ruth Naliaka (UWG のスタッフ) により実施された。

◆ 湧水保護設備

- 建設された湧水保護設備は、計画通りに機能している。また、受益者たちは適切に設備を利用している。当初の予定通り、この設備からルヒヤへ地域の住民 750 人が、年間を通じて安全な飲み水を得ている。以前のように、汚れた池の水を飲み水や生活用水に利用している住民はいない。
- 建設された湧水保護設備の土壌汚染や、排泄物、下水による汚染は見つかっていない。汚染の原因から、湧水は保護されている。

◆ 維持管理委員会

- 維持管理委員会のメンバーは、当初 150 世帯から選ばれた 10 名に加え、プ

プロジェクト完了後に 10 名が加わり、計 20 名に拡大された。受益者が属する全グループが委員会に参加すること、修理や維持管理に充てられる資源を充実させること、プロジェクトの持続性を確保することを目的に増員が図られた。

- 維持管理委員会は現在も活動を続けている。湧水保護設備の適切な維持管理のため、湧水設備を利用する 150 世帯から少額の利用料を徴収するほか、集めたお金を設備の修理や管理に充てられるように保管している。
- 維持管理委員会は、集まったお金の一部を使い、湧水保護設備の余剰な水を近くの池に流せるように排水溝を掘った。これにより、設備から余剰な水があふれることがなくなり、適切に機能する。

◆ 人びとの変化

- プロジェクトの際に住民たちへ伝えられた、健康と衛生の重要性に関するメッセージが、住民に理解され、行動に移されている。住民たちは、湧水保護設備から汲んだ水を飲む前に、沸騰、塩素添加、太陽光消毒等を行っている。水を保存する容器も水を汲み入れる前に洗っている。
- 湧水保護設備が建設されてからは、汚染された水に起因する病気の流行が治まった。度重なる治療費が減ったことで、住民たちは以前より健康になり、余計な支出が減った。
- 住民たちはより健康になり、時間に余裕ができ、水汲みや病気の治療に費やしていた労力と費用を、農業やその他の活動に充てている。
- ルヒヤへ地域の若者たちが、湧水保護設備の下方に養魚用のため池を作った。この設備から流れる余剰な水を池に溜め、魚を育てて販売し、収入を得た。
- プロジェクトの完了から今日まで、この地域に悪い変化はみられてない。

現場からの声

- ◆ Anna Maloba さん（女性、地域保健センターのボランティア職員）
 - プロジェクト完了後、地域の人びとの水の利用に良い変化がありました。建設された湧水保護設備は、ルヒヤへ地域に住む 150 世帯と近隣地域の住民が利用しています。乾期も含め、年間を通じて安全できれいな水の水源として頼りになり、多くの世帯が利用できています。地域の住民たちは、汚染された水の利用が良くないことだったと理解しています。この根本的な変化が、下痢症の根絶につながっています。住民たちは、遠く離れたため池から汚れた水を汲むことや下痢症の治療のために費やしていた時間を、農業などの生産的な活動に充てています。結果として、彼らの社会経済的な状況が向上しています。私はプロジェクトによる水の利用に関する悪い影響は感じていません。この地

域の水と衛生に関する意識や習慣、行動が改善されたと思います。この地域の多くの人びとが、飲む前に水を沸騰して殺菌し、水を保管する容器も、水を保存する前に洗っています。

- 健康と衛生に関しても、プロジェクト完了後に良い変化がありました。設備を利用する住民たちは、下痢症等の汚染された水に起因する病気が著しく減少したと証言しています。地域保健センターの病床が、以前のように下痢症の患者で埋め尽くされることはなくなりました。また、プロジェクトで実施された健康と衛生に関するトレーニングに従い、適切な水の処理、トイレの利用といった良い衛生習慣を熱心に守っています。
- ◆ Sarah Mumbua さん（女性、小作農家）
 - 建設された湧水保護設備を使っています。以前はため池の水がひどく汚れていましたが、この設備から得られる水は澄んでいてきれいで、汚れていません。
 - 以前は水を汲むために毎日 2 時間ほどかかっていた。今は、家の近くで安全できれいな水を年中得られるようになりました。
 - 生活で一番困っていることは、農業用水と生活用水へのアクセスが十分でないことです。
- ◆ Geoffrey Asombi さん（男性、コミュニティ・リーダー）
 - 湧水保護設備を使っています。この設備から湧き出るきれいで新鮮な水を汲むのが本当に楽しいです。この設備ができる前は、一人で水を汲みに行くことが女性や少女たちの役目でした。ヤギの面倒を見る男性や少年たちが、女性や少女と一緒に水汲みのために長い列に並ぶことや、遠くまで汚れた水を汲みに行くことはとても恥ずかしいことでした。しかし、湧水が保護された後、多くの男性や少年たちは、生活の改善には男性と女性との共同努力が必要であることに気づきました。私は湧水保護設備を大切にしています。この設備は、安全な水源から飲み水を得られているという自尊心を向上させてくれました。私はこの水を家畜の飲み水や、私たちの食事や洗濯に利用しています。
 - プロジェクトの完了後、この地域での良い変化を感じています。地域の保健センターや住民たちが報告しているように、特に下痢症等の汚染された水に起因する病気の発生が減りました。住民たちは、水質保全、水の保管容器の定期的な清掃といった、適切な衛生行動を守っています。また、遠く離れたため池への水汲みや下痢症の治療にかかっていた時間を、農業や社会経済的な活動に充てています。これにより、多くの食料と収入を得て、子どもたちへの教育と健康をサポートできるようになりました。しかし、水の不足は、未だこの地域の最大の課題です。

得られた教訓

今回の事後フォローアップ調査では、プロジェクトの良い影響と予期しなかった失敗に気づくことができた。

フォローアップの様子



建設された湧水保護設備から水を汲む少年



維持管理委員会のメンバーたち



インタビューを受ける Mumbua さん



湧水保護設備から汲んだ水を運ぶ
Asombi さん

(4) 井戸の修繕と衛生、維持に関する啓発活動と青年の維持管理能力向上トレーニング (インド)

1) JWF ファンド 2017 実施プロジェクト概要

- 実施団体：Rural Action In Social Emancipation (RAISE) (#047)
- プロジェクト名：井戸の修繕と衛生、維持に関する啓発活動と青年の維持管理能力向上トレーニング
- 実施国・地域：インド、アーンドラ・プラデーシュ州
- 実施期間：2017 年 10 月～2018 年 3 月
- 受益者数：230 人（女性 80 人、男性 100 人、子ども 50 人）
- 実施費用：1,030 ドル（JWF ファンド 1,000 ドル、RAISE の負担 30 ドル）



実施地の課題

ジョセペット村には、数十年前に建設された浅井戸と掘り抜き式井戸がある。しかし、浅井戸は住民が適切な使い方を知らないために汚染され、開口式で、赤痢や下痢症、肝炎といった水に関連する病気の発生要因となっている。また、掘り抜き式井戸は経年劣化により、汲み上げた水に泥が混ざってしまう。

実施事項

- ◆ 既存井戸 5 基の修繕と洗浄
- ◆ 水と衛生に関する啓発活動の実施
- ◆ 維持管理トレーニングの実施
- ◆ 水質検査の実施

これらの活動により、ジョセペット村の住民たちが安全な飲み水を得られるようになった。汚染された水による病気の減少が期待される。

JWF ファンド 2017 実施前の様子



浅井戸の内部は汚れている



汲み上げた水に泥が混じる既存の井戸

JWF ファンド 2017 実施中の様子



井戸の洗浄

JWF ファンド 2017 実施後の様子



修理したハンドポンプ付き井戸

2) フォローアップ結果

フォローアップ訪問は、2019年2月1日、Mrs. M. Divya (RAISEの会長)により実施された。

- ◆ 修繕・洗浄した既存井戸
 - 修繕・洗浄した既存の井戸 5基すべてが、正常に機能している。井戸から汲み上げた水の水質と水量は、プロジェクト完了時から変化していない。
 - 受益者 230人が、当初の計画通りに井戸を使用している。彼らは、一年を通じて必要な量の水を得られている。
- ◆ 維持管理体制
 - 受益者により創設された運営委員会は活発に活動しており、井戸 5基の維持管理を行っている。

- プロジェクト完了後、維持管理トレーニングを受けた村の青年たちが、井戸 5 基の清掃を 1 度行った。
- ◆ 受益者の変化
 - 井戸の修理によって、住民たちはよりよい質の水を汲めるようになり、水を無駄にしないように気を付けるようになった。
 - 井戸から水を汲んだ後、井戸の周りを毎回きれいにするようになった。
 - 井戸の敷地内へ入る前に、靴を脱ぐようになった。
 - 健康状態が良くなったことで、子どもの登校率が向上した。また、保護者たちの健康状態もよくなり、汚染された水に起因する病気の診察や薬代が減った。余ったお金を使い、より良い食事をとることができている。

現場からの声

- ◆ SK. Naim Basha さん（21 歳、男性、維持管理トレーニングを受けた村の青年）
 - 修理・洗浄された井戸を使っています。状況は以前と変わり、すべてがきれいになり整頓されました。
 - トレーニングで学んだことを活かし、村の隣にある井戸を修理しました。報酬を得ることができ、嬉しいです。
 - 最初は、井戸の使用方法を間違えてしまう住民がいました。これを防ぐため、運営委員会のメンバーが対処し、住民たちは適切にきれいに井戸を使用するようになりました。
- ◆ B.veronika さん（46 歳、女性、運営委員会のメンバー）
 - 井戸に滑車がついたおかげで、水汲みがとても簡単で楽になりました。
 - （運営委員会の役割として）井戸 5 基の検査を月に 1 回、井戸の清掃を月に 2 回行っています。
 - プロジェクトの完了後、住民たちの安全な飲み水や衛生習慣への意識は変わりました。井戸の利用に責任感を持つようになりました。
- ◆ A. Malliswari さん（38 歳、女性、井戸の利用者）
 - 井戸を定期的に使用しています。いまは井戸の水はきれいで、ごみも錆も混じっていません。
 - 井戸を使った後は、周りの敷地をきれいにしています。
 - プロジェクト完了後、住民の意識にはたくさんの変化がありました。みんなが井戸の維持管理に責任感を持っています。

得られた教訓

これまで、RAISE は過去に実施したプロジェクトについて、フォローアップ活動を実施したことがなかった。今回初めて実施したフォローアップ活動は、とても価値があるもので

あった。実施団体として、受益者がプロジェクトの実施内容を有益と感じているかどうかを知ることができた。

フォローアップの様子



修繕・洗浄した井戸と村の人びと



維持管理トレーニングを受けた村の青年たち



運営委員会のメンバーたち

（５）衛生設備と水供給設備の建設による子どもの教育環境の確保（バングラデシュ）

1) JWF ファンド 2017 実施プロジェクト概要

- 実施団体：BASCO Foundation (#157)
- 実施国・地域：バングラデシュ、マグラ県
- 実施期間：2017 年 10 月～2018 年 3 月
- 受益者数：80 人（女兒 24 人、男児 16 人、女性 40 人）
- 実施費用：1,365 ドル（JWF ファンド 1,000 ドル、受益者の負担 125 ドル、BASCO Foundation の負担 240 ドル）



実施地の課題

ロイガン村には公立や私立の教育施設がなく、地域住民は、自ら小学校を運営しており、恵まれない 40 人の子どもが通っている。この小学校は政府による支援を受けられず、適切なトイレや水供給設備がない。このため、児童たちは野外排泄をし、汚れた水を飲んでいる。特に女兒たちは野外排泄に抵抗があり、学校に行きたがらない。このため、女兒の中退率は高く、母親たちは女兒を学校に行かせることに消極的になっている。

実施事項

- ◆ ピットラトリン³とハンドポンプ付き井戸を各 1 基建設
- ◆ 水衛生委員会の設立
- ◆ 設備の利用と健康に関する啓発活動を 2 回実施
- ◆ 水質検査の実施

³ ピットラトリンとは、地面に竖穴を掘って上屋を設置した衛生設備。

これらの活動により、対象地域の住民が安定して水を利用できるようになったため、生活の向上が期待される。

JWF ファンド 2017 実施前の様子



対象の学校には衛生設備と水供給設備がない

JWF ファンド 2017 実施中の様子



児童への啓発活動

JWF ファンド 2017 実施後の様子



完成したピットラトリン



井戸の水を飲む児童たち

2) フォローアップ結果

フォローアップ訪問は、2019年3月12日、Mr. James Bakul Majumder（BASCO Foundationのスタッフ）により実施された。

- ◆ ピットラトリンとハンドポンプ付き井戸
 - 学校に建設されたピットラトリンとハンドポンプ付き井戸は、学校に通う児童たちが利用している。ほとんどの児童が学校に通うようになり、保護者たちは子どもを学校に通わせることを意識している。飲み水やトイレの利用に

問題は発生していない。女子児童たちはこれまで野外排泄をしていたが、安全な場所であるトイレを使うことが出来ている。

- ◆ 維持管理体制
 - 教師は児童 7 人のグループを作った。彼らは、週に何日かトイレと井戸の清掃を行っている。
- ◆ プロジェクト実施後の変化
 - ほとんどの児童が学校に通うようになった。
 - プロジェクト完了後、これまで汚染された水に起因する病気は発生していない。
 - 子どもたちは、日常生活の中で衛生問題と安全な飲み水についての知識を得た。
 - この地域の住民たちが、衛生的なトイレの使い方を意識するようになったほか、プロジェクトを通じて意欲的になった。彼らは以前の習慣は良くないものであったと理解している。
- ◆ その他
 - BASCO Foundation のスタッフは、月に 2 回プロジェクト実施地を訪問し、児童の保護者や地域住民たちとの会合を行っている。
 - 地域住民たちは、子どもたちが安心してトイレで用を足せるようになってとても喜んでいる。子どもたちは保護者に低コストのトイレを家に作るよう促しており、その結果 5 つのトイレが設置された。

現場からの声

- ◆ Khadija Khatun さん（学校に通う女子児童）
 - 以前は学校にトイレがない等の衛生上の問題があったため、不定期にしか学校に通っていませんでした。定期的に学校に通うことが出来るようになり、母親の付き添いも必要がなくなったのでとても嬉しいです。
- ◆ Marufa Khanom さん（学校に通う女子児童）
 - トイレの問題がなくなり、安全な水を飲めるようになったので、定期的に学校に通っています。学校の先生から、いつも野外排泄をしないこと、池の水を飲まないようにと教えられていました。日本水フォーラムは、私たちに安全な飲み水と衛生的なトイレを与えてくれました。この支援に心から感謝します。
- ◆ Jamila Khatun さん（女性、学校教師）
 - 女子児童が野外排泄をする心配から解放されました。蛇に咬まれたり虫に刺されたりする危険が減ったからです。子どもたちのためのトイレを設置してくれた日本水フォーラムに感謝します。私たち教師もこのトイレを使っています。
 - また、このプロジェクトは、衛生習慣のデモンストレーションにもなりました。

この地域の住民たちが、自分のトイレを設置したり、グループを組んで井戸を設置するための集金を行ったりしています。

- 私たち教師は、学校運営委員会と、井戸・トイレ管理委員会を設立しました。井戸とトイレの維持管理に責任を持ち、月例会議を開催しています。

フォローアップの様子



ピットラトリンを清掃する女子児童



井戸から水を汲む児童たち



井戸を清掃する女子児童



学校に通う児童たちと教師

(6) 雨水貯留プロジェクト（フィリピン）

1) JWF ファンド 2017 実施プロジェクト概要

- 実施団体：Asset-Based Community Development with Equity Foundation（ABCDE Foundation）（#108）
- プロジェクト名：雨水貯留プロジェクト
- 実施国・地域：フィリピン、北サンボアンガ州
- 実施期間：2017年10月～2018年3月
- 受益者数：240人（女子児童123人、男子児童109人、教師8人）
- 実施費用：1,121ドル（JWF ファンド1,000ドル、ABCDE Foundation の負担121ドル）



実施地の課題

実施地は山地にあり、湧水や小川等の水源から遠く離れている。水を汲むためには、1.5時間ほどかけて山を下らなければならない。特に女性にとって、日常的に水を汲みに行き、洗濯などを行うことは困難である。また、この地域では常に水が不足しており、住民の健康や衛生、収入面に悪影響を及ぼしている。

実施事項

- ◆ 事前説明の実施
- ◆ 雨水貯留タンク2基の建設
- ◆ 管理組合の設立
- ◆ 雨水の管理等に関するトレーニングの実施

これらの活動により、対象地域の住民が安定して水を利用できるようになったため、生活の向上が期待される。

JWF ファンド 2017 実施前の様子



住民が水源として利用していた川

JWF ファンド 2017 実施中の様子



雨水貯留タンクの建設

JWF ファンド 2017 実施中の様子



雨水を集める配管の設置

JWF ファンド 2017 実施後の様子



完成した雨水貯留タンクから水を汲む子ども

2) フォローアップ結果

フォローアップ訪問は、2019 年 2 月 10 日、Mr. Giovannie Yangyang（ABCDE Foundation のスタッフ）により実施された。

- ◆ 小学校の雨水貯留タンク
 - 小学校に建設された雨水貯留タンクは計画通りに機能している。また、タンクの容量はこの学校が必要とする水の量を十分に満たしている。主に学校に通う児童が利用している。需要が最も高くなるのは、4 月から 6 月の乾期の間である。
 - タンクの維持管理は、生徒の保護者と小学校の教師が行っており、タンクと配管等の清掃は小学校が雇った清掃業者が実施している。
- ◆ 地域センターの雨水貯留タンク

- 地域センターの雨水貯留タンクは、適切に機能しているが、タンクの水は地域住民の需要を満たしていない。特に4月から6月の乾期の間は需要が高く、住民たちは水が足りない期間は地域から4キロ離れた水源まで水を汲みに行っている。
- 地域の管理組合が地域センターのタンクを維持管理し、そのメンバーが交代制で清掃を行っている。
- ◆ 地域の菜園
 - プロジェクト完了後、住民たちは家庭菜園を作った。この地域に住む人びとの約6割が自分の菜園を持っており、さまざまな野菜を定期的に育て、収穫することが出来ている。
- ◆ 受益者の変化
 - 雨水貯留タンクにより、小学校の児童と地域住民が、安定して安全な飲み水を得られるようになった。
 - プロジェクト実施後、地域住民のほとんどが自分のトイレを所有することが出来た。プロジェクト実施前は対象地域にトイレがなかったが、水を利用できるようになったので、実施団体は自治体へ住民たちが自分でトイレを建設できるよう、必要な基本的材料を提供するよう依頼した。この依頼に応じ、自治体から便器や砂、レンガ、セメント等の材料が支給され、住民たちは自らトイレを建設することができた。

現場からの声

- ◆ Mary Joy Patadilla さん（37 歳、女性）
 - 雨水貯留タンクの水は、自宅と菜園で使っています。きれいな水を得られるようになって、とても嬉しいです。タンクの近くに住んでいるので、遠くに住んでいる人よりは簡単に水を得ることができます。
 - 地域センターの雨水貯留タンクから水を汲むときは、量を決めて地域住民と水を分け合っています。タンクの清掃は管理員会により、誰が清掃するかを順番に決めています。
 - プロジェクト完了後、私の家族と地域住人に前向きで大きな変化がありました。
- ◆ Fidel Sayre さん（46 歳、男性）
 - 地域センターの雨水貯留タンクを使っています。以前は小川まで水を汲みに行っていました。いまはすぐに水を得ることが出来ます。ですが、水が足りなくなる時もあるので、あと2つか3つタンクが必要だと思います。
 - タンクの清掃は、当番が回ってきたら行っています。タンクが出来て、とてもよい影響がありました。
- ◆ Maredel Segayo さん（32 歳、女性）

- 地域センターの雨水貯留タンクをよく使っています。ここから水を得られるようになって、とても助かっています。
- 水の利用には、管理組合が定めた決まりがあります。管理員会はタンクの清掃当番決めを担当しています。
- 水汲みがタンクのおかげで楽になったことは、本当に素晴らしいです。

得られた教訓

過去に実施したプロジェクトのうち、依頼を受けてフォローアップを実施したことが数回あった。意義深いものもあれば、フォローアップの中で失敗が見つかることもあった。

フォローアップの様子



小学校の雨水貯留タンク



地域センターの雨水貯留



小学校の菜園



住民の菜園

以上